

上田地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議概要

1 日 時	平成28年2月16日(火) 午後1時30分から3時30分まで
2 会 場	本庁舎6階大会議室
3 出席者	上田地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 委員 19名
4 オブザーバー	上小地方事務所地域政策課、上田地域広域連合(企画課)
5 行政関係出席者	構成市町村総務企画担当課長、上田市検討部会担当課長
6 公開・非公開等の別	公開
7 傍聴者 1人 /	取材記者等 1社
8 会議概要作成年月日	平成28年2月26日

協 議 事 項 等

1 開会

(司会：上田市政策企画課長)

2 委嘱状交付

机の上にあらかじめ配布してある委嘱状の確認をもって委嘱状の交付とさせていただいた。

3 あいさつ

上田市長からご挨拶申し上げた。

4 委員自己紹介

50音順名簿の順で、出席委員から自己紹介を行った。

5 会長・副会長選出

規約では互選により選出するとなっているが、丸山委員から事務局提案の提示を求める発議をいただき、

会長に宮本智夫様、副会長に伊藤隆也様

という案を事務局から提案し、委員の皆様からご了解いただき選出された。

(宮本会長)

このところ、人口減少社会ということが話題となっているが、魅力あるまちづくり(自治会活動の維持)のためには、市民、企業、行政がいろいろな場面で助け合い、連携がより一層必要であると感じている。上田地域定住自立圏においても、市町村の垣根を越えた、活発な連携・協力が進むよう、それぞれのお立場から、ご意見をいただきたい。

(伊藤副会長)

副会長として、会長の円滑な議事進行を補佐していきたい。

6 議事 (進行：宮本会長)

(1) 上田地域定住自立圏について

(2) 平成27年度 of 取組状況について

(事務局 - 上田市政策企画課)

資料に沿って説明。

(小山委員)

「有害鳥獣駆除対策の推進」について、県内ではまだまだ処理施設の数が少ないが、全県の取組としてジビエ肉の活用を進めようとしている。取組の実績として捕獲頭数の記載はあるが、個体がどの程度ジビエ肉として活用されたのか、土に埋めたかを把握しておくことが重要だと考える。

(上田市森林整備課長)

現在、南信地域では加工処理施設が19箇所設置されているが、東信地域には同様の施設はなく、

上田地域定住自立圏では捕獲個体のジビエ肉への活用がほとんどされていない状況である。

(上田市政策企画部長)

現在はほとんどが土に埋めている状況かと思うが、それ以外にどの程度食べられているかを含め調査したい。また、このジビエ肉の活用に関しては、次の議題で提案する「今後の取組」の中で重点的に進めていく事項の1つとして位置付けている。

(長檜委員)

スクールカウンセラーの取組に関連することとして、日ごろ小中学校の児童生徒に触れる中、学校教育現場における臨床心理士の役割が重要であり、その必要性が高まっていると感じる。東信地区における臨床心理士資格をもつ先生の割合のデータがあればお答えいただきたい。本学でも臨床心理士の資格を持つ先生を探しているが、その確保が難しい。定住自立圏の取組としてスクールカウンセラー派遣を行うにあたって、どのように人材を確保し、事業を拡大させているのか、教えていただきたい。

(政策企画課 担当)

教育機関に対する臨床心理士の配置の割合等の詳しい数字についてはデータがなく、この場でお答えできないため、調査したうえで長檜委員に報告申し上げたい。現在取り組んでいるスクールカウンセラーをどのように確保してきたかという質問についても確認のうえ、別途報告申し上げたい。

(桑原委員)

「産業立地・人材育成支援事業」の中で、講演会、研修会の実績はすべてARECで行った事業のみを掲載しているのか。それとも、特別に企画して実施しているのか。

(上田市商工課長)

ほとんどがARECで行っているものではあるが、さかきテクノセンターと一緒にパートナーフォーラムを実施したものが実績として入っている。あわせて、浅間テクノポリスセンターで実施されるセミナー等についても圏域の企業への周知を図るなど、関係機関と連携した人材育成支援に努めている。

(桑原委員)

ARECプラザは有料登録企業の集まりであるが、圏域の構成市町村にも賛助会員となっただき、広く圏域の企業に情報が行き渡るよう事務局同士で調整を進めていただきたい。

(3) 今後の取組み及び共生ビジョン(変更案) について

(事務局 - 上田市政策企画課)

資料に沿って説明。

(清水委員)

昨年12月に青木村で女性団体によるジビエ料理講習会が行われ、出席した県の林務課から駆除された個体が食肉として利用される割合は3%ぐらいという話があった。捕獲頭数の多くが埋設されていると聞く中、我々も料理の勉強をしているので、加工したジビエ肉が供給されるような体制を早期に作っていただきたい。

(上田市森林整備課長)

上田市を含め圏域にはジビエ肉料理を研究している皆様がいるので、その方々の声を聞きながら、しっかりと研究し、当圏域でも活用を進めていきたい。

(小山委員)

広域ワイン特区(千曲川東地区)を取得しワイン振興の枠組みが整ったことは一つの成果だと思う。次の展開として、県が進める原産地呼称制度のような長野県全体という広いエリアとする制度ではなく、ワイン用ぶどうに適していると言われるこの広域ワイン特区(千曲川東地区)の風土、気候にあったブドウの栽培と、このエリアでの原産地呼称制度を新たに設け、本当の意味での産地化・ブランド化を進めたらどうか。

(上田市政策企画部長)

これから広域特区をとった後の取組を本格的に進めることになるが、このエリアで生産されたワインだということが表示できるような認定制度も検討していきたい。

(下村委員)

最近、発達障がいや学習障害を持つ子が多くなってきており、このような子どもが普通クラスで学ぶことができるようしっかりと支援員を付ける、あるいはカウンセラーの派遣などの丁寧な対応をとるといった取組がこれまで以上に重要になると考える。これに関して、(仮称)発達支援センターの設置が検討のままとなっているが、現在の状況はどうなっているか。

(上田市保育課長)

発達障がい、学習障害を持つ子は年々増加傾向にあることから、今後も保育士の研修や講演を充実し、圏域全体で保育士のスキルアップを図っていきたい。

(上田市子育て・子育て支援課長)

(仮称)発達支援センターの設置の検討状況について申し上げたい。当初、支援が必要な子どもに対応する機関として発達支援センターの設置の検討をスタートしたが、ここ4年の中でそれぞれの市町村で専門の臨床発達心理士を配置したり、専門病院との連携を図ったりするなど、ある程度の支援が行われている。このような中、今後のあり方としては、あえて中心市に包括的に支援するセンターを設置するのではなく、各市町村で丁寧な対応にあたり、それぞれの取組の連携を強化する体制をつくる方向で検討が進められている。

(丸山委員)

地方創生を進めていくうえでの要素が「今後の取組」の中に整理されているかと思うが、今後どのように具体的事業を進めていくか。

(上田市政策企画部長)

国は地方創生を進めるうえで広域生活圏を対象とした新たな事業、あるいは地域と地域との連携により課題を解決し、地域活性化を図る事業をより重視している。地方創生の交付金についても、地域間連携の取組に多く分配する傾向にあることから、より一層定住自立圏の連携を活発にさせ、必要な財源を確保するなかで、具体的な事業を進めてまいりたい。

(長岡委員)

現在、取組事業の中に協定が未締結の事業がある。要望の1つとして、多くの事業に構成市町村が参画できるよう中心市として上田市からの協定締結の働きかけを行っていただきたい。

(事務局)

来年度の共生ビジョンの見直しにあわせて連携協定の範囲を広げていきたいと考えている。

7 その他

(宮本会長)

概ね意見が出尽くしたと思われるので、質疑は以上とし、本日いただいた意見については、今後取り組む事業や調査研究に生かしてもらうことをお願いし、会長としての議事進行を終えることとする。

8 閉会

(司会：上田市政策企画課長)

本日いただいた意見等は事務局で整理し、それぞれの取組事業で直ちに生かせるものは取り入れ、いただいた意見を参考に検討や調査研究を進めるなど、今後の取組に生かしてまいりたい。

来年度、所定の5年間の終了にともない、平成28年度は改訂していく予定であり、懇談会を複数回開催する予定であるので、御出席をお願いしたい。

9 解散後、信州上田大河真田丸ドラマ館の見学

おおむねの終了時間：午後3時30分